

## 審判上の注意事項

1. 本大会は2026年度（公財）日本バレーボール協会6人制規則に準じて行う。なお、ネットの高さは、男子2 m 43 cm、女子2 m 24 cmとする。
2. 監督はプロトコール前、キャプテンはトスの前に、記録用紙にサインを済ませる。
3. 構成メンバーは最大18名でリベロプレーヤーを含む。チームは、最大2名までのリベロプレーヤーを試合ごとに登録できる。
4. ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはコートオフィシャルにあたっているチームの指導者が行う。ただし、準決勝でファーストレフェリー、決勝でファーストレフェリー、セカンドレフェリーを公認審判員が行う。
5. ブザーを用いた審判は不可とする。必ず短管・長管のホイッスルで行うこと。
6. ウォーム・アップ・ゾーン内でのボールの使用は禁止する。
7. ワンボールシステムで試合を行うので、デッドになったボールの処理は速やかに行うこと。
8. セット間はフリーゾーンでボールを使用してもよいが、隣のコートの邪魔にならないように、パス程度のものとする。
9. 役員、相手チームの選手はもちろん、自チームのプレイヤーに対しても粗暴な行為や人格を損なうような言動は、慎まなければならない。
10. スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。（相手チームに向かってのガッツポーズ等）
11. 試合中、ボールの交換を要求する場合、選手がファーストレフェリーまたはセカンドレフェリーに申し出ること。
12. モップでのワイピングについてはタイムアウト中、セット間に自チームで行うこと。ただし、ファーストレフェリー・セカンドレフェリーが危険であると判断した場合はモップを入れてワイピングする。
13. ワイピングは、コート内の3名以上の選手が、自分の持っているハンドタオル等を用いて速やかに行うこと。
14. タイムアウトは、ハンドシグナルを明確に示して要求すること。

15. タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。なお30秒を待たずにコートに戻ってもよい。但し、タイムアウトの時間が短くなることはない。

16. 給水のためのタイムアウト（WTO）は給水を目的としているため、選手は30秒間ウォームアップエリア付近で給水をしなければならない。

17. 【サービス許可時の反則の取り扱いについて】（下記のケースは反則としない）

コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、またポジション4にリベロが上がった場合は正規の選手にリプレイスメントするよう、サービス許可のホイッスルの前に促す。もし、ファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了したりした場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則なしにラリーをやり直さなければならない。

18. 【ハンドリングに関する事項】

ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。チームの2回目のヒットが指を使ったオーバーハンドパスで行われ自チームの空間内にボールが飛んだ場合は、手の中で連続して接触してもダブルコンタクトの反則にならない。ボールがネットの垂直面を完全に通過するか、相手ブロックに接触したときは、ダブルコンタクトの反則になる。それまでに別の反則が起きた場合、その反則が優先される。

19. 【ポジション】

サービスヒットの瞬間、サーバーを除き、両チームはそれぞれのコート内に位置していなければならない。

レシービングチームの選手はサービスヒット時、ローテーション順に位置していなければならない。サービングチームの選手はサービスヒット時、どの位置にいてもよい。

レシービングチームのポジションの反則が成立するのは、サーバーがトスをした瞬間である。

トスをする瞬間までに、コート内に位置していなかったり、ポジションが完全に入れ替わったりするケースは反則となる。サーバーがトスをする瞬間までに、完全に入れ替わり反則となるケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなければならない。サーバーが反則（不適切なサービスの実行やローテーション順の間違いなど）をした場合、相手チームにポジションの反則があったとしてもサービスの反則となる。

20. 【スクリーン】

サービングチームの選手は、サービスボールがネットを超えるまで、手を頭より上にあげてはならない。意図的なスクリーンが疑われる場合、ファーストレフェリーはゲームキャプテンを通じてチームに注意することができる。